ボーイスカウトノート

eラーニング併用型　用

公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

目　次

歓迎の言葉　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
講習会のねらい　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
講習会の各ステップの内容　・・・・・・・・・・・・・・　２

事前研修
ステップ１．ようこそボーイスカウトへ　・・・・・・・　３
ステップ２．ボーイスカウトが目指すもの　・・・・・・　７
ステップ３．ボーイスカウトの教育の進め方　・・・・　１１

集合研修
開講式・オリエンテーション　・・・・・・・・・・・・　１５
ステップ４．愉快なハイキング　・・・・・・・・・・・　１６
ステップ５．青少年の未来のために　・・・・・・・・・　２１
閉講式　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４

参考資料
　スカウト運動で使われる用語　・・・・・・・・・・・　２５
　スカウト章　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
　世界スカウト機構憲章　・・・・・・・・・・・・・・・　２７
　参考書籍について　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８
　連盟歌　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　巻末

このノートは、講習会の学習に合わせて記入ができるようになっています。

●歓迎の言葉

このたびは、ボーイスカウト講習会にご参加いただきまして、ありがとうございます。私たちはあなたのご参加を心より歓迎申し上げます。

ボーイスカウト運動は大自然の中で、年齢の異なる子どもたちが、仲間同士が互いに助け合い、励まし合いながら、子どもたちの冒険心をかき立てる楽しいキャンプやハイキングなど、さまざまな体験を通じて自ら成長することを目的としております。

次世代を担う子どもたちの健全な育成は、私たち大人の責任であり、地域社会の大人のあたたかい協力なしには、効果的に推進することはできません。

青少年の健全な育成は、学校の先生や専門家のみならず、地域や家庭が協働して育てていくことが大切です。子どもたちに明るい希望を持たせ、よりよき社会人としての成長を期待できる社会作りのためにみなさまのお力をお貸し頂ければ幸いです。

今回の受講を契機に、どうぞあなたがお持ちになっている知識や経験で、地域の多くの子どもたちを導いてあげてください。

そして、ボーイスカウトにぜひともお力添えをくださいますようお願い申し上げます。

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

●講習会のねらい

このボーイスカウト講習会は、１８歳以上の方を対象として開設し、体験を通して参加者がボーイスカウトの概要とスカウト教育の原理と基本的な方法について知ることを目的としております。

参加者は、３つのｅラーニング研修と半日の集合研修を受講していただき、次に掲げる目標が達成されることを期待いたします。

・スカウト運動の概要を知る。

・スカウト活動について体験を通して知る。

・スカウト教育の基本的な方法について知る。

・スカウト活動の安全について知る。

・スカウト運動と成人の役割について知る。

講習会の各ステップの内容

事前研修

ステップ１．ようこそボーイスカウトへ（ｅラーニング研修）　（約１０分）

１．ボーイスカウト運動の発祥からの経緯と、世界中で展開されている運動であることを知る。
２．ボーイスカウト活動の組織と、年齢構成からなる各部門を知る。

ステップ２．ボーイスカウトが目指すもの（ｅラーニング研修）　（約１５分）

１．ボーイスカウト運動の共通の価値観について知る。
２．日本連盟の教育の目的と基本方針を知る。

ステップ３．ボーイスカウトの教育の進め方（ｅラーニング研修）　（約１０分）

１．ボーイスカウト教育の基本的な方法を知る。
２．ボーイスカウトの各部門の特徴を知る。

※事前研修では、このノートをご活用ください。

- ステップ 1 から 3 を進めるにあたり、ノートの該当部分を確認しながら進めてください。
- このノートにはメモ欄がありますので、各ステップが終わりましたら、気がついたことや感じたことをメモしておくと、集合研修での理解が深まります。

集合研修

ステップ４．愉快なハイキング（集合研修）　（１００分）

１．異年齢少人数グループ（班・組）活動の意義を知る。
２．ボーイスカウトのハイキングを体験し、楽しさを知る。
３．ボーイスカウト活動の安全について知る。

ステップ５．青少年の未来のために（集合研修）　（３０分）

１．現代の青少年との関わり方を知る。
２．ボーイスカウト運動が求めている成人について知る。
３．コミッショナーからの支援の方法を知る。
４．セーフ・フロム・ハームについて知る。

事前研修

✓　ノートを見ながらｅラーニングの受講ページを確認して、「次へ」をクリックして進めてください。
✓　問題が途中で出題されるので、受講ページで答えつつ、ノートにも回答を記録してください。

ステップ１．ようこそボーイスカウトへ

１．ボーイスカウト運動の概要

（１）ロバート・ベーデン・パウエル(B-P)

・ボーイスカウトのビジョン

・国内外のボーイスカウト経験者

・野外活動を通じた教育運動

※動画内の世界のボーイスカウト人口は２０１８年時点の人数です

ふりかえり視聴

問題１（１）の回答：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（２）ボーイスカウトの広がり

・１９０７年　ブラウンシー島での実験キャンプ

・１９０８年　書籍「スカウティング・フォア・ボーイズ」発刊

（３）世界に広がるボーイスカウト

・日本だけでなく世界中で運動が行われており、世界のボーイスカウト人口は増えています

問題１（２）の回答：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

２．日本での広がり（創立 100 周年ムービー）

・１９２３年　関東大震災

・１９５６年　第一回日本ジャンボリー開催（軽井沢）

・１９７３年　第一回日本アグーナリー

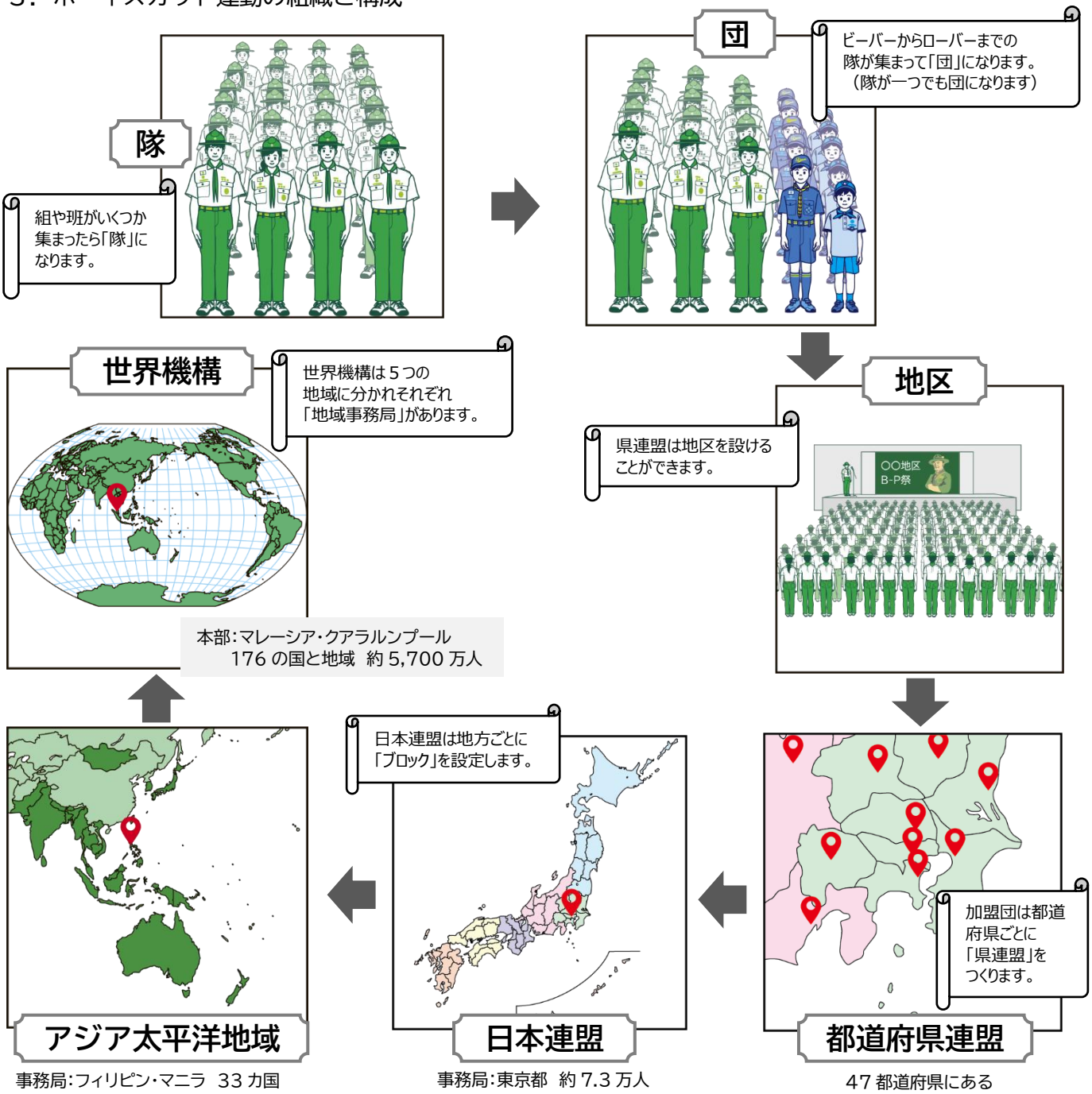
・１９７４年　第一回スカウトフォーラム　⇒　スカウトの日

・１９９５年　すべての部門で女子スカウトの登録が開始

＜オリンピックや万博への奉仕、災害時の復興の助けにスカウトが活躍する＞

ふりかえり視聴

3．ボーイスカウト運動の組織と構成



●隊（部門）／各年代のスカウト達

Beaver Scout
ビーバースカウト
小学校１年生の４月から
（就学直前の１月から仮入隊できる）

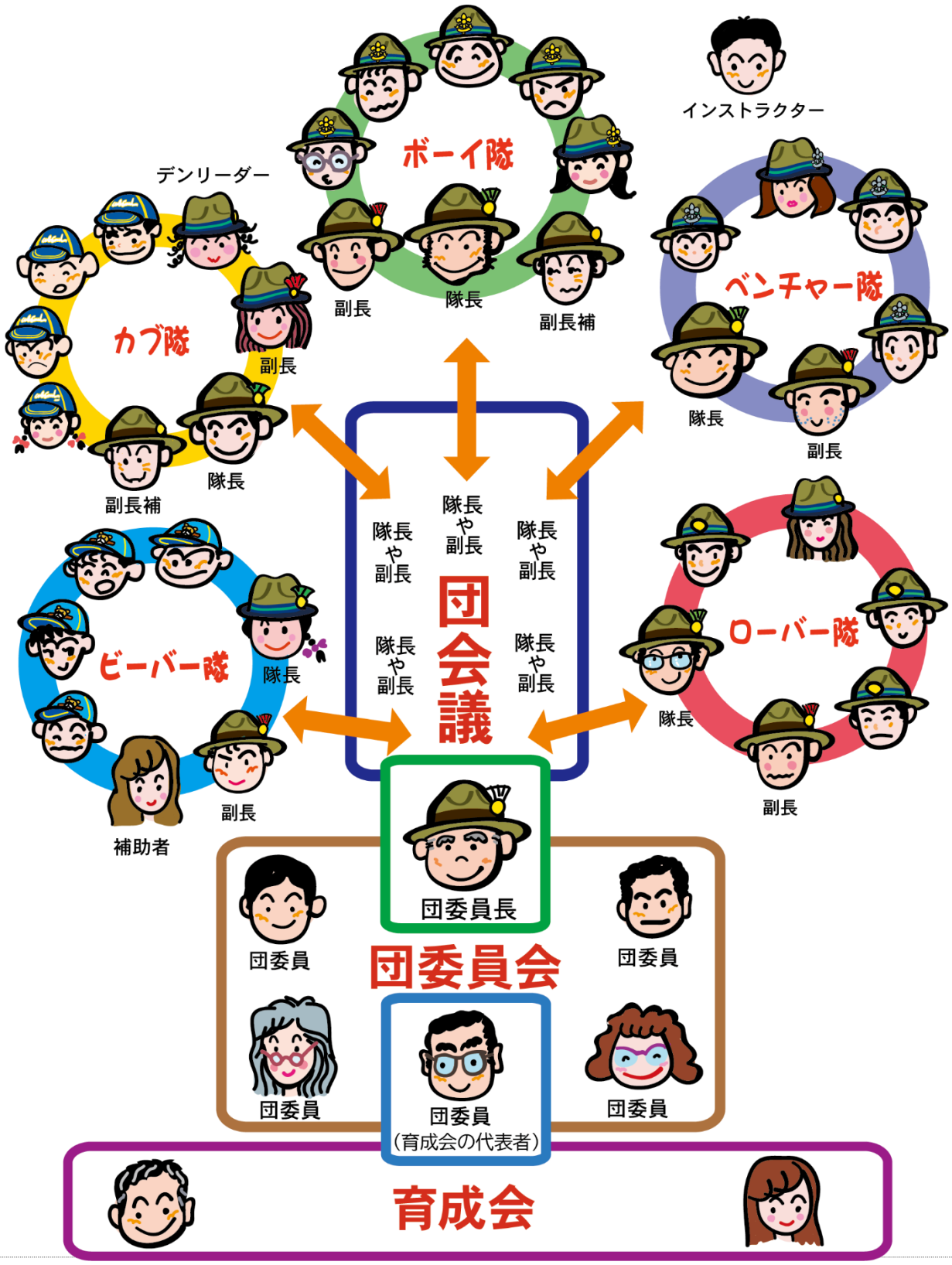
Cub Scout
カブスカウト
小学校３年生の４月から

Boy Scout
ボーイスカウト
小学校６年生の４月から

Venture Scout
ベンチャースカウト
中学校３年生の９月から

Rover Scout
ローバースカウト
18 歳から 25 歳

●団の組織／スカウト達の身近で支援する成人達



問題１（３）の回答：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●ボーイスカウト運動における成人の役割

隊の指導者

隊の運営・スカウト達への直接的な支援

隊長

◎プログラムの立案、展開、実施
◎隊集会や行事の主宰とスカウトの指導
◎隊の運営（登録、会計、記録、事務処理など）
◎副長、デンリーダーなどの育成や支援

副長

◎隊長を補佐し、分掌された任務を行う

デンリーダー

◎カブ隊長や副長と協力して組活動を推進する。
◎家庭でのカブ活動のために保護者を支援する。

補助者

◎ビーバー隊長、副長をたすけて活動をお世話したり安全管理について援助する。

インストラクター

◎特技を指導する。
◎隊の指導者のあまり得意でない分野の活動の指導、援助をする。

団の指導者

団の運営や各隊への支援

スカウトの実際訓練には直接たずさわらない。

団委員長

◎団の資産を管理する。
◎団の財政について責任を持つ。
◎集会場、備品及び夏季キャンプ実施について便宜を図る。
◎団の各隊指導者の選任について責任を持ち、それらの指導者に対し訓練参加の援助を行う。

団委員

◎団内スカウトの進歩の促進を図る。
◎団内すべてのスカウトの入退団を管理し、団の加盟登録について責任を持つ。
◎団内のスカウトの健康と安全に留意する。
◎スカウト運動の趣旨の普及に努める。

●気づいたこと・感じたこと

ステップ２．ボーイスカウトが目指すもの

１．創始者ベーデン-パウエル（B-P）最後のメッセージ

「スカウティング フォア ボーイズ」(ボーイスカウト日本連盟発行)より抜粋

スカウト諸君

「ピーターパン」の劇を見たことのある人なら、海賊の首領が死ぬ時には、最後の演説をするひまはないにちがいないと思って、あらかじめその演説をするのを、覚えているであろう。私もそれと同じで、今すぐ死ぬわけではないが、その日は近いと思うので、君たちに別れの言葉をおくりたい。

これは、君たちへの私の最後の言葉になるのだから、よくかみしめて、読んでくれたまえ。

私は、非常に幸せな生涯を送った。それだから、君たち一人一人にも、同じように幸福な人生を、歩んでもらいたいと願っている。

神は、私たちを、幸福に暮らし楽しむようにと、このすばらしい世界に送ってくださったのだと、私は信じている。金持ちになっても、社会的に成功しても、わがままができても、それによって幸福にはなれない。幸福への第一歩は、少年のうちに、健康で強い体をつくっておくことである。そうしておけば大人になった時、世の中の役に立つ人になって、人生を楽しむことができる。

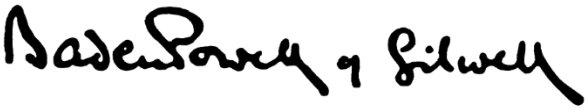
自然研究をすると、神が君たちのために、この世界を、美しいものやすばらしいものに満ち満ちた、楽しいところにおつくりになったことが、よくわかる。現在与えられているものに満足し、それをできるだけ生かしたまえ。ものごとを悲観的に見ないで、なにごとにも希望を持ってあたりたまえ。

しかし、幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸福を分け与えることにある。この世の中を、君が受け継いだ時より、少しでもよくするように努力し、あとの人に残すことができたなら、死ぬ時が来ても、とにかく自分は一生を無駄に過さず、最善をつくしたのだという満足感をもって、幸福に死ぬことができる。幸福に生き幸福に死ぬために、この考えにしたがって、「そなえよつねに」を忘れず、大人になっても、いつもスカウトのちかいとおきてを、堅く守りたまえ。神よ、それをしようとする君たちを、お守りください。

（これは 1941 年１月８日にベーデン-パウエルがなくなった後、彼の書きものの中から発見された）

君たちの友

ベーデン-パウエル・オブ・ギルウェル



指導者に・・・

（前略）

この運動を進めていく上において、諸君のごとき成人指導者の協力を得たことを感謝しなくてはならない。

諸君は、常に目を見開いてよき後継者をさがし、かがり火を受けつがせねばならない。この運動は、愛国精神による任意の運動であり、俸給取りの組織としてはならない。

この運動は短期間に大きな支持を得て伸びてきた。健全にして幸福なる社会を構成するために、狭量にして利己的・政治的なものを除去し、犠牲的・人類愛に奉仕してきた。

人々の善意と協力により国家相互の協調によって伸展してきた。

過去の経験により、平和と幸福に貢献してきたことが示される。そして大なる繁栄につくすことができる。

将来父となる青少年のために、大きな貢献をしているのである。

指導者たちは、神の命に従い、世界平和のために偉大なる奉仕をしているのだという自覚をもって努力されたい。余は諸君に衷心より敬意を表したい。

ベ-デン-パウエル

２．１００年以上続いている教育運動

（１）理由その１：明確な目的があること

・より良き社会の形成を願い、

・青少年の健全な育成をし、

・社会に貢献できる人材を育て、

・社会の様々な場所で活躍する人材を輩出する

【動画を通じてボーイスカウト運動を見ていきましょう】

①世界で活躍するスカウト経験者

野口　聡一　スカウトアンバサダー／JAXA 宇宙飛行士（当時）

・スカウト運動は国際的である

・「そなえよつねに」の精神で準備しておく

・ボーイスカウト時代の思い出（キャンプ、ジャンボリー）

ふりかえり視聴

問題２（１）の回答：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

②一人前ってなんだろう

未来を生きる中で本当に大切なことを一緒に考えていきませんか。

・自分で考え、自分のことは自分でする

・みんなで楽しみや喜びを分かち合う

・困っている人の助けになる

・より良き社会人の育成とは、

ふりかえり視聴

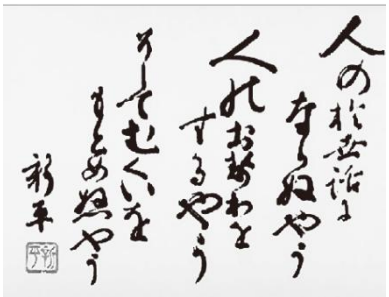
③自治の三訣

ボーイスカウト日本連盟の初代総長の後藤新平は、自治こそが人間生活の根本であり、信と愛の奉仕こそは社会生活の源泉であるとして、この「自治の三訣」を示されました。

人のお世話にならぬよう
人のお世話をするよう
そしてむくいをもとめぬよう

後藤新平(ごとう　しんぺい)

大正11年少年団日本連盟初代総裁及び初代日本連盟総長となった後藤新平は、自治こそは人間生活の根本であり、信と愛の奉仕こそは社会生活の源泉であるとして、「自治の三訣」を訓えられた。これは誠に尊いものであり、簡にして真理を喝破した至言の名訓である。ボーイスカウト発展のためにつとめて全国各地を歴遊し、スカウト運動を助けると共にその普及に尽くされ、全国のスカウトの敬慕の的になった。



「自治の三訣」（じちのさんけつ）

後藤新平 初代総長の言葉

問題２（２）の回答：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（2）理由その２：世界共通の原理「ちかい」と「おきて」があること

スカウトは入隊に際して、それぞれボーイスカウト以上の者は「スカウトのちかい」、また年少の年代は、「カブスカウトのやくそく」、「ビーバースカウトのやくそく」をたてます。

また、初めて指導者として加盟登録する者は、スカウトの「ちかい」をたてるかこれを再認します。

●スカウトの「ちかい」

私は名誉にかけて次の三条の実行をちかいます
一、神（仏）と国とに誠を尽くしおきてを守ります
一、いつも他の人々をたすけます
一、からだを強くし心をすこやかに徳を養います

●スカウトの「おきて」

1 スカウトは誠実である	スカウトは、信頼される人になります。 真心をこめて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします。
2 スカウトは友情にあつい	スカウトは、きょうだいとして仲よく助け合います。 すべての人を友とし、相手の立場や、考え方を尊重し、思いやりのある人になります。
3 スカウトは礼儀正しい	スカウトは、規律正しい生活をし、目上の人を敬います。 言葉づかいや服装に気をつけ、行いを正しくします。
4 スカウトは親切である	スカウトは、すべての人の力になります。 幼いもの、お年寄り、体の不自由な人をいたわり、動植物にもやさしくします。
5 スカウトは快活である	スカウトは、明るく、朗らかに、いつも笑顔でいます。 不平不満を言わず、元気よく、進んでものごとを行います。
6 スカウトは質素である	スカウトは、物や時間を大切にします。 むだをはぶき、ぜいたくをせず、役立つものは活用します。
7 スカウトは勇敢である	スカウトは、勇気をもって、正しく行動します。 どんな困難なことがあってもくじけずに、新しい道をきり開きます。
8 スカウトは感謝の心をもつ	スカウトは、信仰をあつくし、自然と社会の恵みに感謝します。 お礼の心で、自然をいつくしみ、社会に奉仕します。

●ビーバースカウトの「やくそく」

ぼく（わたくし）はみんなとなかよくします
ビーバー隊のきまりをまもります

●ビーバー隊の「きまり」

1　ビーバースカウトは　げんきにあそびます
2　ビーバースカウトは　ものをたいせつにします
3　ビーバースカウトは　よいことをします

●カブスカウトの「やくそく」

ぼく（わたくし）はまじめにしっかりやります
カブ隊のさだめを守ります

●カブ隊の「さだめ」

1　カブスカウトは　すなおであります
2　カブスカウトは　自分のことを自分でします
3　カブスカウトは　たがいに助けあいます
4　カブスカウトは　おさないものをいたわります
5　カブスカウトは　すすんでよいことをします

（3）ダイバーシティ＆インクルージョン／Ｄ＆Ｉ

・人格と個性を尊重し支える社会

・国際障がいスカウトキャンプ大会（日本アグーナリー）

ふりかえり視聴

（4）ボーイスカウト日本連盟の目的と基本方針

●当連盟の目的

この法人は、世界スカウト機構憲章に基づき、日本におけるボーイスカウト運動を普及し、その運動を通じて青少年の優れた人格を形成し、かつ国際友愛精神の増進を図り、青少年の健全育成に寄与することを目的とする。(定款第１章第３条)

●教育の目的

本連盟は、ボーイスカウトの組織を通じ、青少年がその自発活動により、自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるよう教育することをもって教育の目的とする。(教育規程１－３)

●教育の基本方針

ボーイスカウト運動は「ちかい」と「おきて」の実践を基盤とし、ベーデン-パウエルの提唱する班制教育と、各種の進歩制度と野外活動を、幼年期より青年期にわたる各年齢層に適応するように、ビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト及びローバースカウトに区分し、成人指導者の協力によってそれぞれに即し、かつ、一貫したプログラムに基づいて教育することを基本方針とする。（教育規程１－４）

●参加の原則

本連盟の組織は、平等の原則に従い、すべての人に開放される。(教育規程１－５)

３．１００年の中で柔軟に変化していくもの

・単にキャンプや楽しい活動をしているわけではない

・数値では測れない能力や心構えを育成する

⇒意欲、協調性、コミュニケーション力、忍耐力など

・子どもの興味も社会の求めるものも時代とともに変化する

・保護者の視点で感じること

ふりかえり視聴

問題２（３）の回答：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●気づいたこと・感じたこと

日本連盟 Web サイトでは、保護者の方のインタビュー動画を紹介しています。
皆さんが、入団前に気になっていたこと、一緒に活動するお友達を誘うときの声かけのヒントとしても、お使いください。
https://www.scout.or.jp/member/download/pr-tool

ステップ３．ボーイスカウトの教育の進め方

●５つの部門（隊）の特徴

期間	小学校入学前	小学校														中学校							満18歳を迎えた年度末まで（18歳に達する日以後の最初の3月31日まで）	18歳以上、満26歳を迎えた年度末まで（26歳に達する日以降の最初の3月31日まで）
		1年		2年			3年		4年		5年			6年		1年		2年		3年				
	1月〜	4月	3月	4月	9月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	9月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	9月	3月		
部門(隊)	ビーバースカウト					カブスカウト									ボーイスカウト								ベンチャースカウト	ローバースカウト

部門(隊)	ビーバースカウト	カブスカウト	ボーイスカウト	ベンチャースカウト	ローバースカウト
概　要	**戸外を中心とした集団でのあそび** 隊の活動への参加や、家庭での生活指導によって、自然に親しみ、基本的な生活技能、社会性、表現力を伸ばす。	**戸外を中心としたしつけと訓練** 組や隊での活動、および家庭や近隣社会での生活指導に参加することによって、良い社会人としての基本を修得する。	**野外を中心としたしつけと訓練** 班および隊の活動に参加する ことによって自分の責務を果たし、野外生活を主とした体験学習を通して良き社会人たる資質の向上を図る。	**自発活動と自己目標の発見** 隊やグループに参加し、「ちかい」と「おきて」の実践およびグループワークの手法を用いたプログラム活動を通して自ら考え行動し、その結果に責任を負うことができることを目指す。	**自己開発と心の訓育** 「ちかい」および「おきて」を各自の生活に、より強力に具現化する機会を与えるとともに、自らの有為の生涯を築き、社会に奉仕する精神と体力を養うことを目指す。
課　題	周囲の人間の認識	社会規範の認識と受容	地域社会における公民性・社会性の涵養	社会の中における個人としての成長	成人としての人道主義の実践と社会奉仕
教育のねらい	集団への参加	しつけの指導→集団への適応	自発活動の奨励→集団における役割	自主活動と自己目標の発見→ 個人の完成	自己探求奉仕
活　動	あそび	あそび	ゲームとルール	グループワークとプロジェクト	自己研鑽と奉仕活動
形　態	群	群(組)	班の仲間	グループの一員	個(自立)
進歩・進級区分	ビーバー ／ ビッグビーバー	り　す うさぎ ／ しか ／ くま	スカウトバッジ/初級 → 2級 → 1級 → 菊	アドベンチャーバッジ/ベンチャー章 → 隼 → 富士	進歩制度は制定されていませんが、自己啓発の目標として、世界的にも認められている英国エディンバラ公国際アワードへの取り組みを推奨しています。 英国エディンバラ公国際アワード(3種)
進歩・進級記章（必修課目）		うさぎ りす しか くま			
（選択課目）	 木の葉章 小枝章	 チャレンジ章(40種)	 技能章(84種)		
帽章 制服					
スカウト運動の一貫性	成人指導者の協力 → 自発活動				

●５つの部門（隊）の目標

ビーバースカウト活動の目標

・神（仏）と身の回りの人たちについて認識させる
・自然に親しませる
・表現力を伸ばす
・所属する喜びを味わわせる
・考える力を育てる
・健康と安全について知らせる
・活発に活動させる
・体験をとおして学ばせる
・愛と感謝の心を育てる
・国際組織の一員であることを知る

カブスカウト活動の目標

・神（仏）をうやまい、自分への責任を認識させる
・自然に親しみ愛護する心を育てる
・小グループの中で、相互に影響しあう機会を提供する
・所属意識を伸ばし、目的を達成したときの充実感を感じさせる
・自ら考え判断し、決断する力を養う
・健康と安全について認識させる
・好奇心と冒険心を満足させる
・体の動きを高め、創造力を伸ばす
・体験をとおして学ばせる
・フェアプレーの精神と正義感を養う
・愛と感謝の心を育てる
・国際組織の一員であることを学ぶ

ボーイスカウト活動の目標

・神（仏）をうやまい、自分のつとめを行う
・野外活動により大自然を知る
・自分の役割と責務を果たすことを学ぶ
・人生に有用な知識と技能を習得する
・自ら考え判断し決断する力を養う
・自分の特性と長所に目覚め、創造力を伸ばす
・健康の増進につとめ、身体を強健にする
・好奇心と冒険心を満足する活動を行う
・リーダーシップを身につける
・他の人々に役立つ奉仕活動を行う
・フェアプレーの精神と正義感を養う
・愛と感謝する心を養う
・国際組織の一員として、国際理解について学び体験する

ローバースカウト活動の目標

・明確な信仰をもち、自己の所属する教宗派の行事に進んで参加する
・高度の野外活動により、心身を鍛錬しスカウト技能を磨き奉仕能力を向上させる
・自ら課題を設定し、調査、実験及び実習によってこれを研究し、自己の生活を更に開発する
・ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊又はベンチャー隊の訓練指導に協力し、奉仕する
・地域社会への認識を深め、地域に貢献する
・国際組織、国際社会の一員として、相互理解を深め、国際活動、国際協力について学び実践する

ベンチャースカウト活動の目標

・「ちかい」と「おきて」の実践に励み、信仰を深める
・各種の文化的及び社会的活動に参加し、自ら計画したプロジェクトを達成する
・野外活動を通して自らの健康の増進を図り、自己の確立を目指す
・指導者の援助を得て、各種身体的活動に挑戦する
・他の人々への理解を深めるとともに、奉仕の精神を身に付け、団や他部門への協力と地域社会に対する奉仕に努める
・協調性とリーダーシップを養うとともに、社会の一員としての自覚を深める
・国際組織の一員として、国際活動、国際協力について学び、実践する

１．５つの部門（隊）の特徴

✓　受講ページの情報やノートの記載内容を確認して、ノートに書きだしてみてください。

（１）ビーバースカウト部門（隊）

期間：小学校 ＿＿＿＿＿＿ ～ 小学校 ＿＿年生 まで

メモ：・（例）戸外、固定化されたグループなし

・

・

ふりかえり視聴

（２）カブスカウト部門（隊）

期間：小学校 ＿＿年生 ～ 小学校 ＿＿年生 まで

メモ：・

・

・

（３）ボーイスカウト部門（隊）

期間：小学校 ＿＿年生 ～ 中学校 ＿＿年生 まで

メモ：・

・

・

ふりかえり視聴

（４）ベンチャースカウト部門（隊）

期間：中学校 ＿＿年生 の９月 ～ 年齢 ＿＿＿歳 に達する日以後の最初の３月３１日まで

メモ：・

・

・

（５）ローバースカウト部門（隊）

期間：年齢 ＿＿＿歳 ～ ＿＿＿歳 に達する日以降の最初の３月３１日まで

メモ：・

・

・

問題３（１）の回答： ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問題３（２）の回答： ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

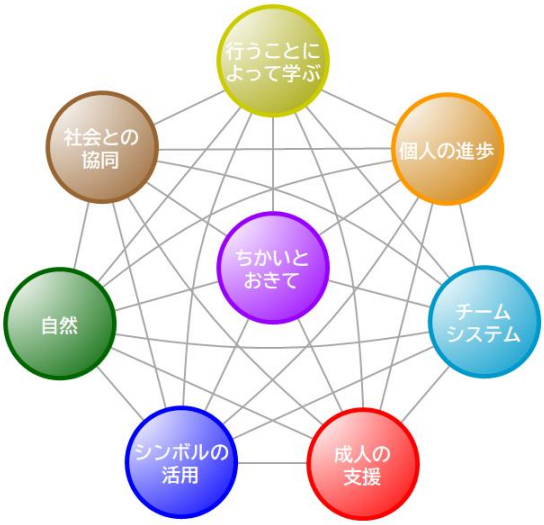
２．ボーイスカウト運動の一貫性（スカウト教育法　８つの要素）

✓　受講ページの情報を確認して、記載されている内容をノートに書きだしてみてください。

〇行うことによって学ぶ

〇社会との協同

〇個人の進歩



〇自然

〇チームシステム

〇シンボルの活用

〇成人の支援

◎「ちかい」と「おきて」

問題３（３）の回答：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●気づいたこと・感じたこと

以上で事前学習は全て終わりました。
この後は集合研修へ参加していただくことになります。「送信」をクリックして、メールで届くステップ３までの「履修証」の印刷物またはデータをボーイスカウト講習会(集合研修)でご提示ください。

集合研修

- ✓ 研修の冒頭で、ｅラーニングの内容をふりかえります。動画の内容やメモを思い返してください。
- ✓ 子どもたち（スカウト）と同じように屋外プログラムの中で楽しみながら体験してください。
- ✓ 忙しく研修が進んでいきますが、気になったこと、分からなかったことなどをメモしてください。

●開講式・オリエンテーション

班の仲間

氏名	所属団	役務	その他

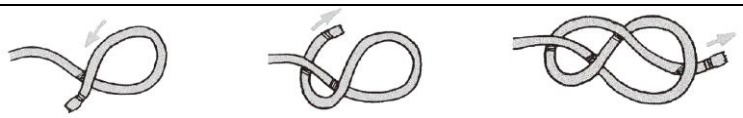
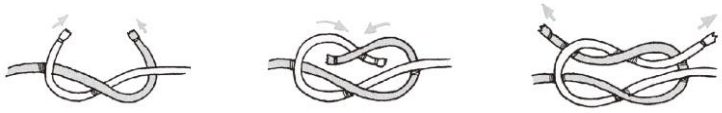
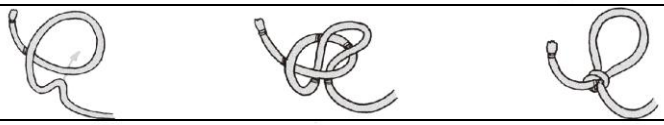
ステップ４．愉快なハイキング

１．隊活動の流れ

２．実習

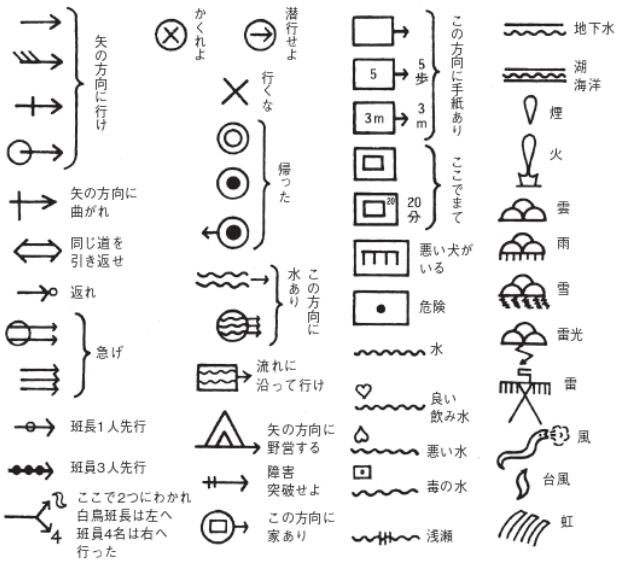
（１）班集会（ハイキングの準備）

ロープワーク

８の字結び ロープの端に結び止めるときに使います	
本結び 同じ太さのロープ結び合わせるときに使います	
ひきとけ結び 輪の部分を他のものにかけて引くとしまります	

追跡サイン

通信文・絵文字



【握手・身ぶり信号・笛の合図】

握手

スカウトの握手は、スカウトサインとともに、スカウト仲間が親しみの気持ちをこめて行うあいさつです。スカウト活動では、世界の多くの国々のスカウトと交流を深める機会があります。そのときに左手の握手をします。

日本では、左手の小指をあけて三指とし、小指をからめてスカウトサインの形で握手します。

カブスカウトの握手は右手でします。人差し指と中指を手首の内側へまっすぐにつけて、図のようにします。「カブスカウトのやくそく」を固く守り、「カブ隊のさだめ」をしっかり実行する仲間という意味です。

ビーバースカウトでは、特に定めていません。必要があれば、通常の右手の握手をすることにしています。

スカウトの握手

カブスカウトの握手

身ぶり信号

スカウトは、行動する時には大声で号令をかけて動くようなことはありません。スカウトだけに通じるサインや合図によって行動します。

●集合隊形（一例）

指揮者（隊長等）の指示（腕の形）により所定の形（隊形）で集合します。主な隊形は右図の①から④です。

ボーイスカウト以上では、主に①のＵ字形で集合します。

カブスカウトでは、②の「円形（ロック・サークル）」を基本としています。カブコール（カブの仲間のセレモニーの１つ）はこの隊形で行います。

ビーバースカウトでは、②の円形が基本ですが、指揮者は、円の中心ではなく、スカウトと一緒に輪の中に入ります。

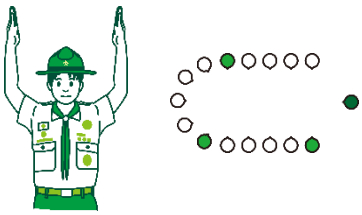
③の「縦隊」と④の「横隊」は、特に部門に関係なく行います。

いずれの隊形も、状況に応じて使い分けています。

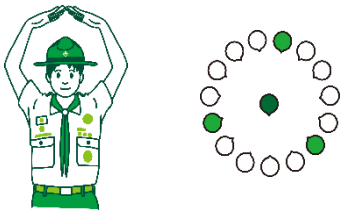
●手の合図（一例）

「気をつけ」や「休め」のような基本の動作も手の合図で行います。

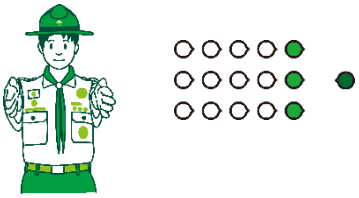
①Ｕ字形



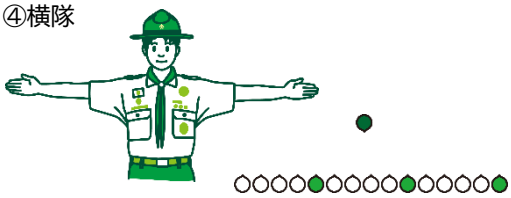
②円形



③縦隊



④横隊



⑤気をつけ

⑥休め

⑦すわれ

⑧わかれ

笛の合図

通常はボーイスカウト隊以上で使用し、ビーバースカウト隊やカブスカウト隊ではあまり使用しません。というのは、たとえばボーイスカウトのキャンプでは隊の本部を中心に班ごとに班のキャンプサイトが点在しています。そういう場合は「声」による合図よりも確実に届き、かつ注意を喚起する「笛」による合図が使われるのです。

笛の合図の一例

▬ 長音　● 単音

集　合	▬●●●●	止　め	▬▬▬●
班長集合	▬●▬	注意せよ	●
危　険	▬▬▬	気をつけ	▬▬▬▬
始　め	●▬▬▬	休　め	●▬▬●

【モットー・スローガンなど】

●モットー

スカウトのモットー　　そなえよつねに（備えよ常に）

カブスカウトのモットー　　いつも元気

ビーバースカウトのモットー　なかよし

●スローガン

日日の善行

●敬礼

スカウトの敬礼は、３本の指をたてて行います。これを「三指の敬礼」といい、スカウトの３つの「ちかい」を意味します。これは世界共通のもので、３つの「ちかい」をたてた仲間のしるしなのです。

カブの敬礼は、カブスカウトの２つの「やくそく」を表し、その形はいつも注意を怠らない動物の耳の形を表しています。

ビーバーの敬礼は、ビーバースカウトの２つの「やくそく」を表しています。指をつけるのは、ビーバー年代の子ども達には自然にでき、カブと区別するためでもあります。

敬礼は、相手に対する敬愛、礼儀、親密さを表すもので、国旗掲揚、スカウト仲間の挨拶やセレモニーのときなどに使います。

●ビーバーは、二指（人差指と中指）で指をつける。
●カブは、二指（人差指と中指）で指をはなす。
●ボーイ以上は、三指（人差指と中指と薬指）で指をつける。
（隊の指導者としてスカウトと活動している時は、それぞれの隊の敬礼をします。）

・スカウトサイン

スカウトサインは、「私はスカウトである」というスカウト仲間の合図であり、世界各国のボーイスカウトに共通なサインです。スカウトサインは「ちかい」や「おきて」を唱えるときなどに使います。

カブサインは、世界中のカブスカウトのサインで仲間であることのしるしです。「やくそく」や「さだめ」を唱えるときなどに使います。

ビーバースカウトのサインも、同じように「やくそく」や「きまり」を唱えるときなどに使います。

●ビーバーは、ひじを曲げて右腕を垂直に立てます。
●カブは、右腕をまっすぐ高く上げます。
●ボーイ以上は、右腕を水平にあげ、前腕を上方に曲げて上腕と垂直になるように伸ばします。

【記章や標章の例】

指導者の制服

参加章等

制服の標章

所属連盟章

所属地名章

団号章

腕章

世界スカウト記章

組別章

月の輪章

●制服と記章類

スカウトの制服は、どこの国のスカウトも世界スカウト記章をつけています。これは入隊式でスカウト一人ひとりが世界のスカウトの仲間に加わったこと、スカウトとしてお互いに「ちかい」と「おきて」を守って友情を深めることを示しているのです。

また、制服には各種の記章や標章をつけます。自分の住む地域、所属する団や隊、役務、進歩の状況、取得した技能、参加した大会などが一目でわかります。自分の住むところ、支えてくれる人たち、自分の役割、自分が常に努力し社会に役立とうとしているスカウティングの精神がそこに表れているのです。

指導者やスカウトたちがスマートに制服を着こなし、快活に活動する姿や秩序ある行動や動作から、一般の人々はスカウト運動に信頼と好感を持ち、また、同年代の若者のあこがれとなることでしょう。

多くの人々に見つめられ、関心を持たれることによって、スカウトたちは社会の温かい支援と期待とを肌で感じ取り、ますますスカウティングへの情熱を高めることになります。

このように「友情」と「自信」と「信頼」の象徴となる制服を大いに誇りをもって正しく着用するようにしてください。

なお、「スカウトは制服を着ているときだけがスカウトではない」と言われるように、制服を着ているときと同じ気持ちが自然に身につき、スカウトらしい行動をいつもとれるようになることを指導者自らが模範を示していきましょう。

（2）隊集会（ハイキング）

●まとめ

●気づいたこと・感じたこと

創始者ベーデン-パウエル（B-P）の言葉

スカウティングは真面目に勉強しなければならないような学問でもなければ、学説や出典を集めたものでもない。さらに、少年たちに規律を繰り返し教え込んだり、その個性や、やる気を抑圧するような軍隊的な規律でもない。

そう、それは野外での楽しいゲームである。そこでは、少年の心を持った大人たちと少年たちが兄弟として一緒に冒険にでかけ、健康と幸福、手技と役に立つことを身につけることができる場なのです。

ベーデン-パウエル著「隊長の手引き」

ハ イ キ ン グ 報 告 書

班名

ポイントNo	課　題	答　　え	時間・採点
出発			
CP1			
CP2			
CP3			
善行			

ステップ５．青少年の未来のために

１．青少年とのかかわりについて

２．ボーイスカウト運動が求めている成人

アンノウンスカウト物語

　１９０９年の秋のことでした。イギリスの都ロンドンは、この日も一日中濃い霧に包まれていました。アメリカのイリノイ州シカゴからロンドンに来た出版業のウイリアム・ボイス氏は、市の中心部で、ある事務所を探していましたが、道がわからなくて困り果てていました。そのとき霧の中からひとりの少年が近づいてきました。
　「何かお役に立つことがありますか？」と少年は言いました。

　事務所がわからなくて困っていることがわかると、少年は先に立って、その事務所までボイス氏を案内しました。ボイス氏はアメリカ人の習慣で、少年にチップをあげようと、ポケットに手を入れました。しかし、ボイス氏がチップを取り出す前に、少年は勢いよく右手を挙げて敬礼をしました。

　「僕はボーイスカウトです。今日も何かよいことをするつもりでいました。お役に立ててうれしいと思います。スカウトは他の人を助けることで、お礼はもらいません。」と少年は言いました。

　少年からボーイスカウトのことを聞いたボイス氏は、用事を済ませてから、少年にボーイスカウトの本部まで案内してもらいました。ボイス氏が少年の名前を聞く前に、少年はもう姿を消していました。

　イギリスの本部でボーイスカウトのことを詳しく調べたボイス氏は、アメリカに帰って大統領のタフト氏などに話をし、やがて、アメリカでボーイスカウト運動が始められたのです。

　その少年はどうなったのでしょう。その後誰も知りません。しかし誰も知らないこの少年の小さな善行が、アメリカのたくさんの少年に、ボーイスカウトを伝えるもとになったのです。

【セーフ・フロム・ハームの取り組み】

スカウト活動において、自分自身と周りの人々をハーム/harm（危害や危険）から守ることを学び、より安全で安心な活動の環境を築き、維持することが「セーフ・フロム・ハーム」です。「セーフ・フロム・ハーム」は、青少年、すなわちスカウトの安全を第一にしつつも、スカウト運動に関わるすべての人が対象となります。「ちかい」と「おきて」を基盤として行われるスカウト運動とは無縁と思えるかもしれませんが、現代社会において、さまざまな危害が私たちの周囲に潜んでいる状況があります。

1. さまざまな「ハーム」

ハームは、特に青少年では、いじめ、身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクト（無視、放置）、搾取（児童労働、強奪、恐喝）などの危害や危険を挙げることができます。

・いじめ

ある青少年に対して、一定の人的関係にある他の青少年が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった青少年が心身の苦痛を感じているものをいいます。

いじめには、殴る、蹴るなどの身体的苦痛を伴うものや、相手の嫌がる言葉をあびせる、無視するなどの精神的苦痛を伴うものの他、インターネットや SNS を通じた間接的ないじめもあります。

・虐待

身体的虐待とは、体罰や厳しすぎる叱責をするときに起こります。

心理的虐待とは、絶え間なくあざけりを受けたり、無視されたり、責められたり、自分以外の者と否定的に比べられたりすることです。

性的虐待とは、だましたり、圧力をかけたり、脅かしたりして、性的な行為に無理やりに巻き込むことです。

・ネグレクト

青少年の保護・養育に責任ある大人が、無関心や怠慢などから、可能であるにも拘わらず食事や衣服を与えなかったり、戸外に放置したり、必要な治療を受けさせなかったりすることです。

・搾取

青少年が労働者として働かせられ、また他の者の利益目的の行動をさせられるときに、起きるものです。青少年の健康、教育、発育に悪影響のある行動が搾取に該当します。青少年の労働や、児童買春といった事柄があてはまり、ポルノグラフィーの素材に青少年を関わらせることなどがあります。

2.「セーフ・フロム・ハーム」のめざすもの

わたしたちは、「セーフ・フロム・ハーム」の導入により、次の結果を目指します。

①ハームのない活動環境を提供することで、スカウトの年代に適した安全で安心できる活動になります。

②スカウト活動の教育環境のレベルが向上し、危機管理や事故防止が的確に行えます。

③指導者は、「セーフ・フロム・ハーム」を学ぶことにより、スカウトや保護者からの信頼が向上するとともに、指導者自身の意識の向上が図れます。

④「セーフ・フロム・ハーム」に取り組むことにより、スカウト運動の地域社会からの信頼がさらに高まります。

⑤「相談窓口」の設置によりコンプライアンスの向上とともに、活動実態の可視化につながります。

そして、これらを推進することにより、「スカウト運動の質の向上」を目指します。

よい方向にスカウトを導くためには、よい指導者が必要です。すなわち指導者の質はスカウト教育の質につながります。

３．これからの研修と団やコミッショナーの支援

〇定型訓練（開設予定は、日本連盟ホームページ　https://www.scout.or.jp を参照）

〇定型外訓練

〇自己研修

〇個別支援

〇その他の研修など

ボーイスカウト講習会修了後の主な指導者訓練

ボーイスカウト講習会

【隊指導者訓練】

ウッドバッジ研修所
スカウトコース
（3泊4日：テント泊）
スカウト教育に関する基本的な内容を習得する。

ウッドバッジ研修所
課程別研修
（1日型：8時間）
・ ビーバー、カブ、ボーイ及びベンチャーの課程別コース。
・ 隊運営に関する基本的な方法を習得する。

ウッドバッジ実修所
・ ビーバー、カブ、ボーイ及びベンチャーの課程別コース。
・ 第一教程（課題研究）、第二教程（基本訓練：ビーバー・カブ3泊4日テント泊、ボーイ・ベンチャー4 泊 5 日テント泊）、第三教程（実務訓練）で構成されている。
・ 当該部門の指導者として、プログラム推進能力を高めることについて研修を深める。

スキルトレーニング（スカウト技能の再確認）

【団指導者訓練】

団委員研修所
（2泊3日:宿舎泊）
団指導者としての任務を理解し、団の管理と運営の能力を高める。

団委員実修所
・ 第一教程（課題研究）、第二教程（基本訓練：2泊3日宿舎泊）、第三教程（実務訓練）で構成されている。
・ 団 指導者として、自団の問題解決や将来に向かっての施策を推進する能力を高めることについて研修を深める。

その他の研修など
・ 県連盟、地区等で各種の技能研究会、野営法研修会、指導者の勉強会、ラウンドテーブルなどが開催されています。

◆指導者を援助するのは...

コミッショナー… コミッショナーは、スカウティングの全般にわたって広い知識と経験を持ち、しかも隊長と同じボランティアで、各隊との連携を保ちながらプログラムや団や隊運営等について援助する任務を持っています。

トレーナー…… トレーナーは、指導者訓練機関の運営と実施を担当していますが、その任務の一つに指導者が行う自己研修への個別支援があります。特に研修所や実修所への参加の支援を行います。

●まとめ

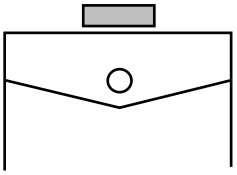
●気づいたこと・感じたこと

●閉講式

●指導者手帳と訓練修了章

〇指導者訓練修了章

〇着用位置



制服の左胸ポケットの上部、フタの上辺に接するように左図の位置に着用する。

●メモ

地区コミッショナー または 担当コミッショナー	役　　務	
	氏　　名	
	連　絡　先	
第　　団　団委員長	氏　　名	
	連　絡　先	
連盟事務局	住　　所	
	連　絡　先	
日本連盟 最新の資料・情報は ホームページをご覧ください	住　　所	〒167-0022　東京都杉並区下井草４－４－３
	連　絡　先	TEL：03-6913-6262　FAX：03-6913-6263
	ホームページ	https://www.scout.or.jp

【スカウト運動で使われる用語】

ウッドバッジ(Wood Badge)

ウッドバッジ実修所（隊指導者上級訓練）修了者に与えられる皮ヒモについた２個のビーズのことを言う。また、ウッドバッジトレーニングをさす場合がある。ウッドバッジトトレーニングとは、隊指導者のための訓練であり、導入訓練、基礎訓練、上級訓練の３段階になっている。

キャンポリー(Camporee)

キャンプ大会のこと。アメリカのスカウト用語で元来は、キャンプ技能を隊ごとに競う大会を意味したが、日本では地区あるいは県連盟・地方の規模で開かれるスカウトのキャンプ大会をいう。

グリーンバー(Green Bar)

ボーイ隊の上級班長、班長、次長あるいはそのグループのこと。上級班長章には緑色横線（グリーンバー）が三本、班長章には二本、次長章には一本あるが、このことから名付けられた。班長会議のことをグリーンバー会議ともいう。

ジャンボリー(Jamboree)

ボーイスカウトのキャンプ大会で、ひとつの国または地域的・国際的・世界的規模で開かれるものをいう。人種・宗教・言語・習慣の違いを超えて、広くスカウトの交流と親善を深めるために開催されている。世界ジャンボリーは 1920 年から、日本ジャンボリーは 1956 年から、ともに４年に１度開催されている。

スカウツオウン・サービス (Scouts Own Service)

宗教の指導者によらず、スカウト自らで行う礼拝のことで、日本連盟教育規定 1-22 では、「加盟員各自の信仰心を高揚するために行われ、それはちかいとおきての実践をより深めるものである。」と示している。

スカウト(Scout)

元来、斥候が原義であるが、ボーイスカウト運動の創始者 B-P が斥候術を基盤に「Scouting for Boys」を創刊し運動を起こしたことから、この運動の青少年加盟員をスカウトと呼ぶようになった。また、この運動に関わる加盟員全体を「スカウト」と呼ぶこともある。このことから、スカウト活動をスカウティングという。スカウティングは広く「スカウト運動の組織・運営・教育・指導者訓練等全て」を含んだ意味に使われることもよくある。

制服(Uniform)

スカウト及び指導者の制服は、本連盟が制定した権威あるもので、加盟員であるスカウト及び指導者が着用できる。制服には「正装」「礼装」があり、制服には「記章及び標章」、「表彰、有功記章及び宗教章」の規程に定められたもの以外はつけられない。

隊(Colony, Pack, Troop, Unit, Crew)

青少年に対しスカウト教育を実施する単位を隊という。日本連盟では青少年の成長区分に従いビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト、ローバースカウトの５つの部門を設け、団ではそれぞれの部門ごとに隊を構成する。

団(Group)

団委員会及びビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊、ローバー隊のそれぞれ各１個隊をもって構成することを標準とするが、そのうちいずれかが欠けている場合でも団と呼ぶ。団は運営上の単位組織であり、加盟登録をしている団を加盟団と言う。

ネッカチーフ(Neckerchief)

スカウトや指導者が各国連盟の服装規程により首に巻く布。スカーフともいう。スカウトのシンボルの一つであるが、現在は使用していない国もある。

ヤーン(Yarn)

物語のこと。スカウトに指導者自身の経験やロマンにあふれた冒険など、教育的な話をすることをさす。これはベーデン-パウエルが『スカウティング・フォア・ボーイズ』の各章の題名をキャンプファイア・ヤーン（営火の話）としたことから、キャンプファイアで指導者がする話をさし、また転じて、キャンプファイア以外のときでも、同趣旨で行う話をさす。日本では、営火夜話又は夜話と呼ぶこともある。

ラウンドテーブル(Round Table)

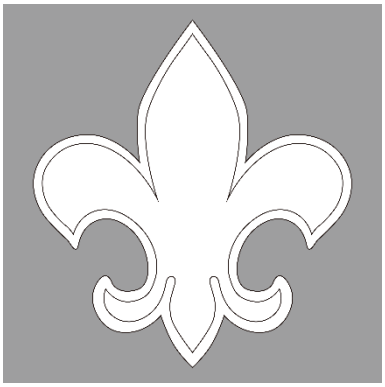
Round Table Conference（円卓会議）の略。テーブルを囲んで上位下位の区別なく着席し、自由に意見を交わす会議の形式をいう。各隊の隊長や副長が隊の運営や技能の研修、プログラムの研究などについて、自分の能力を向上させるため自己研修をする場で、通常、地区コミッショナーが企画する。

【スカウト章】

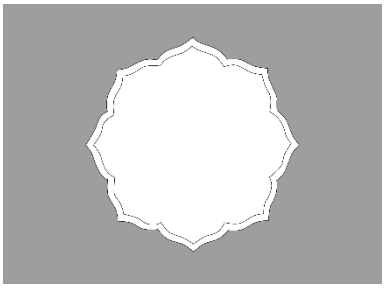
日本のスカウティングの理想と目的を形に表したものが日本のスカウト章です。

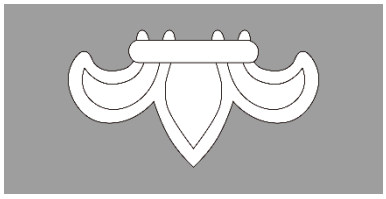
全体の形は世界共通ですが、その一部分にその国の特有のデザインを入れて、その国のボーイスカウトであることを表しています。わが国のスカウト章には３つの花びらの中央に日本古代の鏡の図案を取り入れています。

わが国のスカウト章は、右の６つの部分からできています。

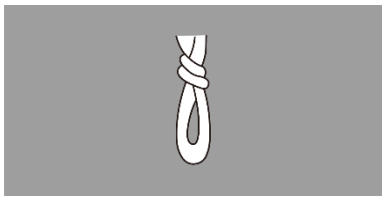
①


②

③


④


⑤

⑥


①ユリの３つの花びらからなる「花形」

ユリの花形は愛を表し、３つの花びらはスカウトの３つのちかいを表しています。真ん中の花びらは「北」を指すコンパス、スカウトの心は愛であり、また、どのように動揺することがあっても磁石の針が北を指して止まるように、正しく「ちかい」と「おきて」の指し示す方向に向かって止まるのです。

②左右の花びらに各１個ずつの「星」

左右の花びらにつけられた２つの星は、真理と知識を示し、また物事を正しく見極め、いつもあらゆることに注意を怠らないスカウトの「眼」を表しています。また星そのものとして、スカウトの野外活動をも表しています。

③中央に１面の「日本古代の鏡」

この鏡は、日本古代の鏡で日本を表すとともに、優れた知性と反省を意味しています。

④花びらを束ねた「ロープ」

このロープは、協力・共同を意味し、世界のスカウトはすべて兄弟であることを表しています。

⑤花びらの下のひろげられた「巻物」

巻物は、いつでも笑いを忘れないスカウトの微笑んだ口もとを表し、それにスカウトのモットーである「そなえよつねに」が記してあります。

⑥　巻物の中央下に下がった結び目のある「ひも」

このひもは、スカウトのスローガンである「日日の善行」を思い起こさせるものです。

世界のスカウト章の例

オーストラリア

韓国

アメリカ

カナダ

イギリス

【世界スカウト機構規約】

序　文

１９０７年にロバート・ベーデン-パウエルによって創始されたスカウト運動を採用し、実践してきた各国連盟の正式の代表者たちは、１９２２年７月にフランスのパリに集まり、世界中のスカウト運動のために国際スカウト会議と共に執行委員会と事務局を設置した。

現行のこの規約は、世界的な協力、友情の精神のもとに、スカウト運動の世界機構の運営の基準となるものである。

第１章　スカウト運動

第１条

定義　１．スカウト運動は、創始者によって考案された目的、原理、方法および以下に述べる事項に従って、性別、出生、人種、信条による区別なく誰をも対象とした、青少年のための自発的で非政治的な教育的運動である。

目的　２．スカウト運動の目的は、青少年が個人として、責任ある市民として、地域、国、国際社会の一員として自らの身体的、知的、情緒的、社会的、精神的可能性を十分に達成できるように青少年の発達に貢献することである。

第２条

原理　１．スカウト運動は以下の原理に基づいている。

・神へのつとめ

信仰上の原則の堅持、それらを表明する宗教への忠誠、およびそこから生じる義務の受け入れ。

・他へのつとめ

地域、国、国際間の平和と理解と協力の促進と調和した自国に対する忠誠。

人間であることの尊厳や自然界の完全性を認め、感謝と敬意をもった社会発展への参画。

・自分へのつとめ

自分自身の発達に対する責任。

第３条

スカウト教育法

１．スカウト教育法は以下の項目の相互作用を通じて行われる進歩する自己研鑽システムである。

- スカウトのおきてとちかい
- 行うことによって学ぶ
- 個人の進歩
- チームシステム
- 成人の支援
- シンボルの活用
- 自然
- 社会との協同

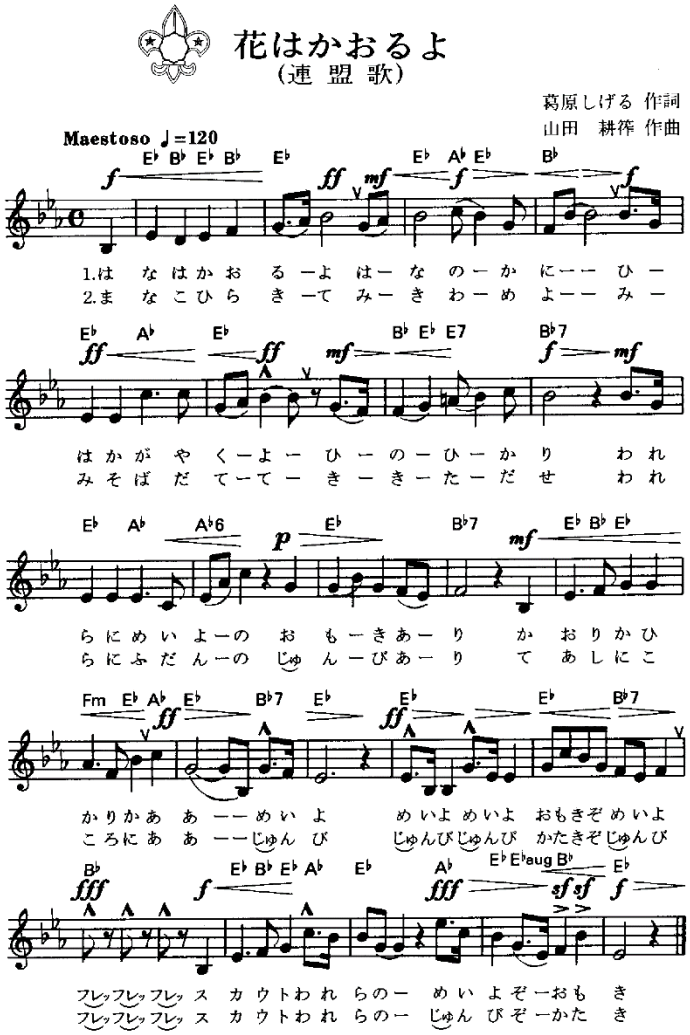
スカウト教育法は、青少年のために意義深く、教育的な経験をさせるために実践され、且つスカウト運動の目的と原理に沿った内容で実践されなければならない。このスカウト教育法は世界スカウト会議において採択され、適宜見直しをされた関連方針の中でさらに説明される。

【より詳しく知りたい方は日本連盟が発行する各種書籍もご活用ください】

BOOKS
書籍

https://scoutshop.scout.or.jp/#catalog

・スカウティング・フォア・ボーイズ
・部門ごとのリーダーハンドブック
・スカウトハンドブック、スカウト技能に対する書籍　など50種以上



●連盟歌「花はかおるよ」

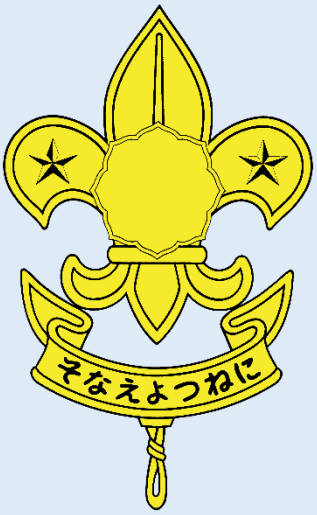
花は薫るよ　花の香に
日は輝くよ　日の光り
われらに名誉の重きあり
薫りか光りか　ああ名誉
名誉　名誉
重きぞ　名誉　フレイ　フレイ　フレイ
スカウトわれらの　名誉ぞ重き

眼開きて　見極めよ
耳そばだてて　ききただせ
われらに不断の準備あり
手足に　心に　ああ準備
準備　準備
固きぞ　準備　フレイ　フレイ　フレイ
スカウトわれらの　準備ぞ固き

発行：令和７年４月１日

公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022 東京都杉並区下井草 4-4-3
電話:03-6913-6262(代)
E-mail:training@scout.or.jp



ボーイスカウト講習会　　第　　回

年　　月　　日

名　前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿